



「おいでまい」通信 令和8年第1号

令和8年7月8日 香川県農業革新支援センター

7月の栽培管理ポイント(その1)

- 有効分けつを確保し、「ガス湧き」を抑えるため、間断かん水を行いましょう。
- 草丈・茎数が確保できれば、中干し(田干し)を開始しましょう。

※間断かん水: 入水した水が無くなり、小さなヒビが入るまで乾かし、その後、湛水と落水を交互に繰り返す。

【気象状況等】

田植え後の6月下旬は梅雨前線や台風の影響で、気温が平年より低く、降水量は著しく多くなりました。

気象庁の3ヵ月予報では、平均気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並みの見込みとなっています。

【水管理のポイント】

①田植え15日後～：

間断かん水を行い、ガス湧きを抑え、根の成長・発達を促進させます。

②田植え30日後～：

草丈40cm程度、1株当り茎数が20～30本程度になったら、中干し(田干し)を開始します。

干す程度は、田面に軽くひび(1cm以内)が入り、田面に立つと田植靴の跡が残り、歩ける程度とします。

大きなひび割れができると根が切れてしまうので、避けます。

③出穂25日前(幼穂形成期)～

間断かん水を行います。



中干し(田干し)の目安



【麦ワラなどのすき込みほ場での水管理】

ガス湧きの発生が著しい場合は、初期除草剤散布7日後以降で、苗の活着状況を確認のうえ、田植え15日後頃から早めに田干しを行ってください。

7月の栽培管理ポイント(その2)

- いもち病が出やすい地域では、ほ場を確認し、本田防除(確認防除)を行いましょう。
- 台風などの影響で、初期除草剤が効果が十分でなかった場合には、中期除草剤を適切に活用しましょう。

【病害虫発生予報(7月7日病害虫防除所発表)】

「葉いもち」：並(普通期栽培)

初発時に「コラトップ豆つぶ」や「ブラシンフロアブル」などの薬剤で、本田防除を行いましょう。



葉いもち

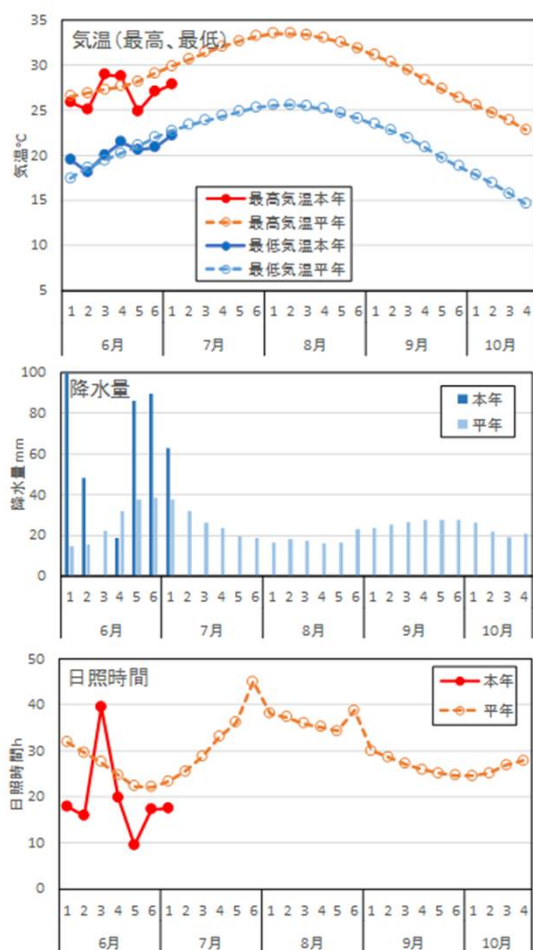
【中期除草】

下表は主な中期除草剤です。使用に当たっては、雑草の種類を確認して、除草剤の使用量、使用時期、使用方法には十分注意しましょう。

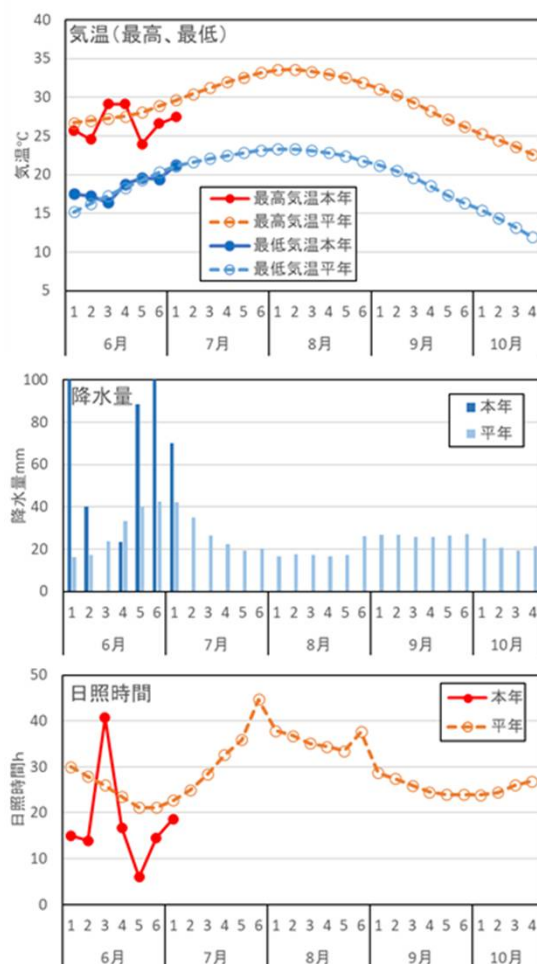
雑草の種類	散布時期・回数	除草剤名 10a当たり処理量	使用上の注意
ノビエ、キシウノスズメノヒエ	移植後7日～ノビエ4葉期まで (収穫30日前まで／2回以内)	クリンチャー1キロ粒剤 1kg	水深3～5cmの湛水状態で均一に散布する。散布後3～4日は湛水状態を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。
広葉雑草	移植後20～30日 (収穫45日前まで／1回)	バサグラン粒剤 4kg	落水、またはごく浅水状態で均一に散布し、3日間(ごく浅水処理は5日間)は入水しない。散布後2日以内に降雨があると効果が不十分になるおそれがあるので、晴天が続く時を選んで散布する。
ノビエ、及び広葉雑草	移植20日～ノビエ4葉期まで (収穫50日前まで／2回以内)	クリンチャーバスME液剤 1,000ml、 水70～100ℓ	落水後に散布し、3～5日間は入水しない。散布後2日以内に降雨があると効果が不十分になるおそれがあるので、晴天が続く時を選んで散布する。
	移植20日(稲5葉期以降)～ノビエ4葉期まで (収穫60日まで／1回)	ツイゲキ豆つぶ250 250g	水深5～6cmの湛水状態で均一に散布する。散布後3～4日は湛水状態を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。

【お問合せ先】

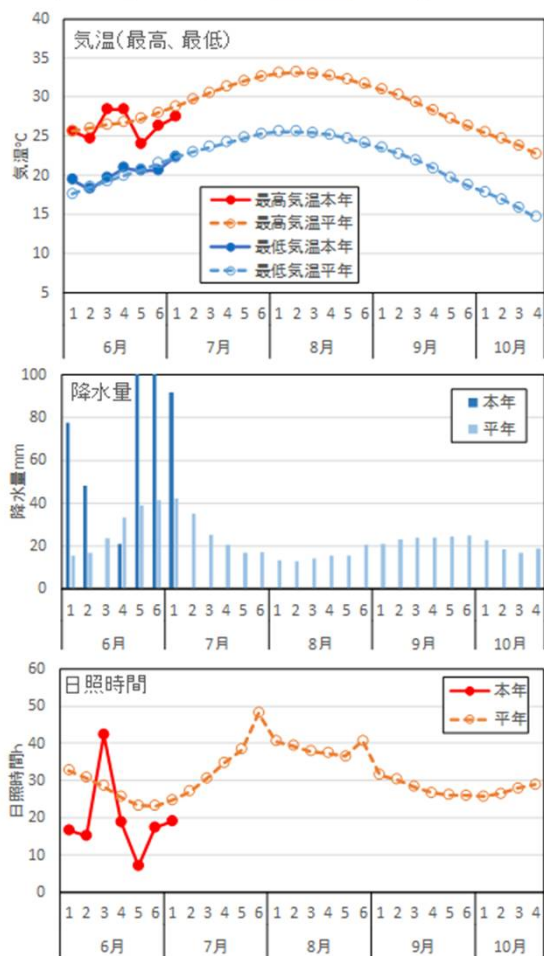
香川県	農業経営課	農業革新支援センター	TEL 087(814)7319
香川県	農業生産流通課	農産グループ	TEL 087(832)3418
香川県	東讃農業改良普及センター		TEL 0879(42)0190
香川県	小豆農業改良普及センター		TEL 0879(75)0145
香川県	中讃農業改良普及センター		TEL 0877(62)1022
香川県	西讃農業改良普及センター		TEL 0875(62)3075



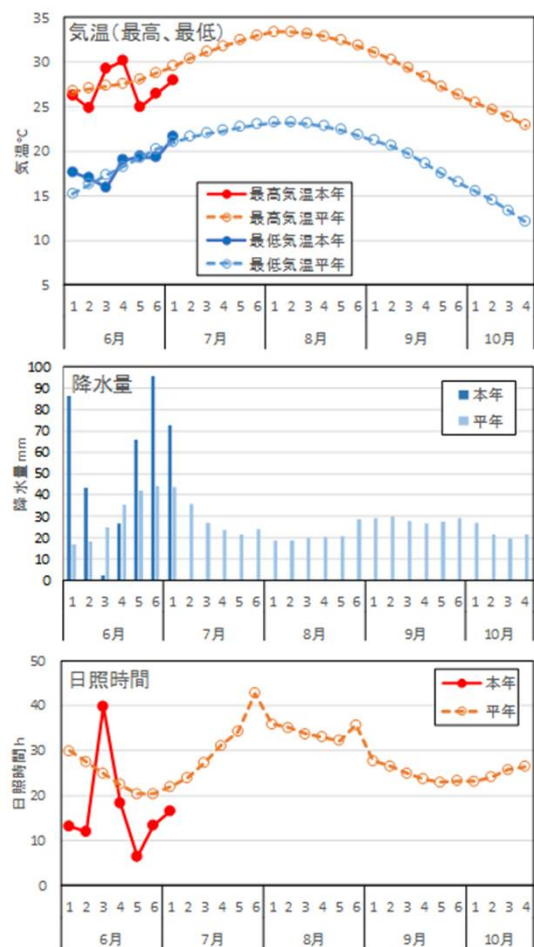
令和8年度 半旬別気象(高松アメダスデータ)



令和8年度 半旬別気象(滝宮アメダスデータ)



令和8年度 半旬別気象(多度津アメダスデータ)



令和8年度 半旬別気象(財田アメダスデータ)